甲斐山岳

2023年3月　第14号

北岳（広河原より）

公益社団法人
日本山岳会山梨支部

甲斐山岳

2023年3月　第14号

公益社団法人
日本山岳会山梨支部

甲斐山岳第14号　目次

令和4年度を振り返って……北原　孝浩…1

山行報告

雨ヶ岳……磯野　澄也…4
茅ヶ岳……矢﨑　茂男…5
富士山残雪期雪上訓練……相川　修…6
八重山・能岳・虎丸山……臼田　昌美…7
西沢渓谷……渡辺　峯雄…8
蛾ヶ岳～大平山……加瀬　尚…9
五竜岳……小宮山千彰…11
青木ヶ原樹海～三湖台（第3回家族登山）……古屋　寿隆…12
横尾山……渡辺　峯雄…13
五宗山……磯野　澄也…14
苗敷山……能津　悦治…15
丹沢山……手崎喜美子…17
焼津アルプス……磯野　澄也…18
雪山入門ステップアップ講習第1回　北横岳……小宮山千彰…19

公益事業

第8回やまなし登山基礎講座……小嶋　数文…21
第5回田部祭……渡辺　峯雄…25
第63回木暮祭……北原　孝浩…26
レインジャー活動報告……古屋　寿隆…27
全国山岳古道調査短信……小宮山千彰・古屋　寿隆…28

随想

学校登山をつなぐ……三枝孝太郎…29
山梨の山の魅力を再び―『甲斐百山』再版―……矢﨑　茂男…31

追悼

遠藤　靖彦さん……小宮山　稔…33

新会員紹介

服部　俊樹、手崎喜美子、石澤　貴子、鶴田　陽子、岩間　明子、荻野　重行、日向　直子、鈴木大介、飯島　典子……35

事務局報告……小嶋　数文…40
会員名簿……45
あとがき……46

令和4年度を振り返って

山梨支部長　北原　孝浩

1　はじめに

新型コロナ感染症が日本で確認されて3年余り、今年度には第7波（7月～9月）、第8波（10月～3月）の流行がありましたが、政府の『国民の仕事や生活の安定・安心を支える日常生活の回復』に向けた行動制限緩和の全体像が令和3年11月12日に定められ、これまで講じられてきた様々な制限が逐次緩和撤廃されてきました。このような状況の中、山梨支部においては感染防止のための基本である「三密を避け、距離をとる」こと、および令和2年5月25日の山岳4団体の「登山活動ガイドライン」を遵守して、年度計画に掲げた諸計画などを滞りなく推進実施することができました。

また、支部員が高齢化する中にあって、今年度は9名という、在籍者の1割を超える方々を支部員に迎えることができました。

2　支部活動概況

支部定時総会は県内の新型コロナ感染状況も相対的に低く規模を縮小して4月16日（土）に開催しました。恒例の総会後の懇親会は総会とは切り離して、コロナ感染状況を勘案して実施時期を決めることにしました。

支部定時総会後の恒例の懇親会および新年会は2年間開催を見送ってきました。コロナ禍の行動制限が緩和されたこともあり、6月10日（金）湯村温泉柳屋において**支部懇親会**を実施しました（参加者25名）。

また、**新年会**も1月26日（木）に岡島ローヤル会館（甲府市丸の内）において3年ぶりに開催しました（参加者30名）。

やまなし登山基礎講座は支部重点事業の一つであり、前年度は開講直前にコロナまん延でやむなく中止としましたが、今年は2年ぶりの開催となりました（第8回やまなし登山基礎講座）。前回までは山梨学院生涯学習センターの全面的なご支援で実施してきましたが、今回は会場の確保、チラシの作成、受講生募集関係、所要経費などのすべてを山梨支部で対応して実施しました。将来を見据えてオンラインによる開講や講座内容をｗｅｂ発信する場合の課題・問題点などを見極めるための諸作業も並行して行いました。

支部山行、会員山行17件（4月～2月）は、12月の富士山で実施予定の雪上訓練、2月の霧ヶ峰山域でのスノーシュー山行の2件は積雪不十分で中止しました。他の計画はすべて実施しました。

雪山入門ステップアップ講習2件（4月～2月）は計画どおり実施しました。

今年度の**第3回家族登山**は山梨県山岳連盟と共催で8月11日（木、祝日）に実施しました。コースは西湖野鳥の森公園から青木ヶ原樹海を経て紅葉台、三湖台を周回して、最後は溶岩流痕跡のあるコウモリ穴洞窟の探検をしました（参加者25名、内親子15名）。

第41回深田祭は4月17日（日）に深田記念公園において式典が行われ、山梨支部は例年通り参加しました。深田祭を記念して支部が毎年実施の茅ケ岳山行を実施しました（参加者7名）。

第5回田部祭は5月22日（日）に西沢渓谷西沢山荘前広場の田部重治碑前で式典が行われ、例年通り山梨支部が参加（北原支部長が代表して献花）しました。本部から坂井広志副会長が参加されました。支部恒例の田部祭記念山行の西沢渓谷周回を実施しました（参加者10名）。

第63回木暮祭は10月16日（日）増富ラジウム峡の奥、金山平の木暮理太郎記念碑の前で式典が行われました。北杜市須玉支所長内藤肇様、本部から坂井広志副会長及び柏澄子常務理事が参加されました。式典に続く恒例のミニ講演は「木暮理太郎の盟友」をテーマに内藤順造顧問が行いました。式典に先立ち恒例の記念山行を横尾山で実施しました（参加者18名）。木暮祭恒例の「ほうとうを楽しむ会」は3年ぶりに行われました。

「日本山岳会創立120周年記念事業」山岳古道調査も第3年目に入り、2つの調査対象古道（「金峰山御岳道」と「南アルプス北部山岳古道」）それぞれについて調査、実査中でありますが、降雪積雪の季節的要因等により進捗が遅延しています。本部から要請の調査古道追加2か所（新倉～転付峠～二軒小屋、富士山吉田口登山道）があり、今後調査担当者の配分見直をして積極的に取り組んで行きます。

引き継がれる山岳祭については関係先との情報交換などに取り組みました。引き続き本部プロジェクトチームとの緊密な連携のもと推進して行きます。

「山梨県山岳レインジャー委託事業」は、5月（三ツ峠・探索）、6月（鳳凰三山・定経路）、7月（奥秩父富士見平・探索）、8月（北岳・定経路）にそれぞれ実施

しました。

3　在籍会員状況

支部在籍会員（会員、準会員）は過去数年70名内外で推移しています。今年度は新たに9名（会員1名、準会員8名）の支部員を迎え年度末77名（会員62名、準会員15名）が見込まれます。今年度末をもって準会員期限終了となる4名の内3名が会員に移行手続き中であります。

なお今年度新規入会の9名の内訳は次のとおりであります。

・今年度のやまなし登山基礎講座の受講生であった者3名（会員1、準会員2）

・今年度以前のやまなし登山基礎講座の受講生であった者5名（全員準会員）

・やまなし登山基礎講座の受講生ではなかった者1名（準会員）

前例にない9名の新規加入がありましたが、これはやまなし登山基礎講座受講生に対して支部山行や会員の個人山行などへの参加勧奨の積み重ねが良い結果に繋がったものと考えています。

年度始		入　会	退　会	年度末
会　員	62	1	*1	62
準会員	7	8		15
計	69	9	1	77

＊死亡：1　　（2月26日記）

山行報告

雨ヶ岳

磯野　澄也

山行日：令和4年4月9日（土）
地　図：2万5千図「人穴」
行　程：本栖浩庵キャンプ場―仏峠―御飯峠―雨ヶ岳―端足峠―本栖浩庵キャンプ場
参加者：磯野澄也、北原孝浩、渡辺峯雄、上田謙治、臼田昌美、石澤貴子

本栖湖の南東側に尖塔のように堂々と聳える山が雨ヶ岳である。山名は雨乞いを行う場所、平地から突出した山、天に近い山などに由来するようだ。科学的には駿河湾に近いため、湿った空気が毛無山地に当たり、雨や霧をもたらすことが山名に関係している。

本栖湖から山頂までの標高差は870m。端足峠から頂上ピストンのルートが一般的だが、今回は本栖湖西岸の仏峠に登り尾根伝いに頂上、端足峠経由して本栖湖への周遊コースとした。

7時に浩庵キャンプ場に集合。本栖湖いこいの森キャンプ場から登山道に入って40分くらいで仏峠に着いた。眼下にブルーの湖面が拡がる。1週間前、本栖には40cmの季節外れの大雪があったが、尾根は日当たりも良いため大半が消えていた。ここから御飯峠までは50分位。この峠は身延町栃代と浩庵キャンプ場の分岐点であり、私の小中学時代の夏季は本栖キャンプが恒例で、学校から栃代を経て本栖湖に行った。

本栖湖と雨ヶ岳

道は明瞭ではない。大小のピークが5つ続いて、1330mのコルに出る。途中の1393mピークは西側に巻くと、そのまま西尾根に入り込みやすいので注意を要する。西には白根三山・塩見岳・荒川岳・赤石岳が木々の合間に現われる。東には竜ヶ岳・富士山が明瞭で、下方の本栖湖の青さは印象的だ。標高差440mを登り切ると、頂上への笹原に出る。あいにくお目当ての富士山は雲の中。積雪約10cmの中、昼食とする。

昼食後、東側の尾根に向けて下山開始。ぬかるんだ登山道は笹も手伝い滑り易い。次第に竜ヶ岳が近くなり、富士山の雲も取れ、絶好の登山日和になる。端足峠までの標高差は500m。竜ヶ岳から下山してきた方々数名と会う。北側の尾根を本栖湖に向けて下る。途中、尾根登山道沿いに多数のバイカオウレンの白い健気な花と出逢い、その都度撮影で時間をとられる。1時間半かけて、始点の浩庵キャンプ場に到着した。

湖畔沿いに車を走らせ、振り向くと雨ヶ岳の勇壮な姿。皆、満足気であった。この後、ゆるキャンで人気の浩庵に行き、新装なったキャンプ場を見学して散会した。

茅ヶ岳

矢崎　茂男

山行日：令和4年4月17日（日）
地　図：2万5千図「茅ヶ岳」
行　程：深田記念公園―女岩―山頂―尾根道―深田記念公園
参加者：古屋寿隆、北原孝浩、矢崎茂男、大澤純二、大澤さな枝、渡辺峯雄、渡辺秀子、小嶋数文、平松清子

第41回深田祭当日、恒例となった茅ヶ岳に登った。今回もコロナ禍のため祭自体は規模縮小しての開催だと聞いていたが、7時半には早くも臨時駐車場が満車となるほどの人出。1年の内、この山が最も活況を呈する日である。

深田祭の日の茅ヶ岳山頂

深田記念公園前広場を8時過ぎに出発。参加者は植物に詳しい会員ばかりで、路傍のヒゴスミレやエイザンスミレ、フジザクラやクロモジなどに出合うたびに足が止まり、その可憐さや特徴の解説に、文字通り花が

咲いた。1時間以上を要して女岩手前に到着。かつての給水場は、落石危険箇所となって立ち入りが規制されている。岩間からしたたり落ちる清水の代わりに、持参のペットボトルで喉を潤した。急登に息を切らすこと50分で稜線（女岩ノコル）へ。そこから更に10分で、深田久弥氏が脳溢血に倒れた地点に着いた。小さな記念碑に合掌して、深田氏の功績を偲んだ。

狭い頂は、数十人の登山者であふれていた。可能な限り距離をとり、黙食を心がけて昼食をとった。雲が広がって展望は芳しくない。北隣の金ヶ岳だけが、山頂の賑わいを見下ろしていた。下山は、すれ違いの混雑を避けて、尾根道を使う。今年もミツバツツジが紫色の見事な光彩を放っていた。

深田記念公園に帰着したのは、午後1時20分。10分後に深田記念碑前祭が始まった。昨年同様、式典は簡素化され、実行委員会会長の内藤久夫韮崎市長のあいさつの後、本支部始め数団体の献花と参列者の献酒が行われた。来年の深田祭はどのような雰囲気で開催されるのだろうか。午後の日差しを柔らかく浴びる山頂を見上げて解散した。

富士山残雪期雪上訓練

相川　修

山行日：令和4年4月23日（土）・24日（日）
地　図：2万5千図「富士山」
行　程：富士山スバルライン五合目―佐藤小屋
参加者：古屋寿隆、上田謙治、小嶋数文、黒沼英美、小川基子、高橋みゆき、井田智子、相川修

雪上技術の習得を目的に、4月23日・24日に富士山で雪上訓練を行った。富士山世界遺産センターに集合。前日までの悪天候により、富士山スバルラインは通行止めであったが、「解除」との吉報が入り、バスで五合目に向かった。

五合目から、雪解けが始まった道を宿泊先である佐藤小屋へ。昼食後、佐藤小屋周辺のなだらかな雪渓にて雪上訓練を開始し、以下の3点の習得に励んだ。

①雪上の歩き方　②ピッケルの持ち方・使い方　③アイゼンの装着の仕方・歩き方

雪上を登る上での基本は、雪崩や落石の危険を回避するため、常に前方や上方、後方に注意を払い慎重に行動する事である。また、バランスを崩さず、転ばないための体の使い方、足の動かし方を身に付ける事も重要だ。色々なステップを一つ一つ意識しながら歩いてみた。斜度、雪質により、歩き方を変える事で安全に歩行できる事を実感した。

休憩後、佐藤小屋にて、翌日の講習内容の事前確認、フリーディスカッションを行った。事前確認では、登山に必要なアイゼン歩行・雪上確保・ロープワークなど基本的事項を重点的に学んだ。フリーディスカッションでは、参加者の自己紹介に始まり、雪山登山論議などに花が咲いた。

雪山を安全に楽しむために

2日目は、雨の予報のため行程を前倒して、午前6時に訓練を開始した。取り組んだ項目は以下の7つである。

①歩行訓練の復習　②滑落停止　③耐風姿勢　④バケツを掘る　⑤雪山のロープワーク　⑥アンカー（支点）の作り方　⑦雪山でのビレイ・ロープを使っての登高

特に、耐風姿勢やピッケルを使用しての滑落停止は命を守る事に直結するため、講師の指示のもと、真剣に取り組んだ。

講習は丁寧な説明で、とても分かりやすかった。また訓練全体の雰囲気として、厳しくも和気あいあいとした2日間であったと思う。今回身に付けた事を生かして、これから様々な雪山に挑戦したい。

八重山・能岳・虎丸山

臼田　昌美

山行日：令和4年5月10日（火）
地　図：2万5千図「上野原」「与瀬」
行　程：上野原市役所―八重山登山口駐車場―八重山―能岳―虎丸山―駐車場
参加者：大澤純二、末木佐登子、臼田昌美

上野原市にある「八重山五感の森」にて、新緑の花見山行を楽しんだ。

まず、駐車場でオカタツナミソウ、歩いていくとジュウニヒトエとギンラン。エビネの群落は満開で朝露に輝

き、各々花の形も千差万別。次のキンラン群落も斜面上部まで咲き、満開中。八重山の自然交雑種ジュウニキランソウは終了。頭上には、オトコヨウゾメ、ウツギの白い花。その根元には、ササバギンラン、フタリシズカ、イチヤクソウの蕾。

写真を撮りながら、ゆっくりと進み八重山五感の森・展望台に着けば、３６０度の絶景の中央に白く輝く富士山。南の丹沢・蛭ヶ岳から大室山、富士の隣には、倉岳山、高畑山、アンテナの三つ峠の西には扇山、権現山。５月の風が心地よい。

能岳山頂から富士山を望む

さて、一度下り登り返して八重山山頂。ヤマツツジの橙色、エゴノキの白、そして、ツリバナの薄ピンクと樹木の花も満開中。道端に咲くチゴユリに励まされたり、ウリハダカエデの独特な木肌に触れつつ能岳へ。山頂ベンチから、今日一番の富士山を眺めて昼食に。その後、こここそ新緑の森・決定版のような道を下る途中、優しいお顔が美しい馬頭観音に見送られて、今年の干支の虎を奉る虎丸神社がある虎丸山に着く。ナルコユリ、アマドコロのうつむく姿や、いきなり道端に現れる目立つ黄色のキンランに数ヶ所で出会い、足取りも軽く下山する。

駐車場手前にある山ノ神・厄神の祠に手をあわせ、今日一日、多くの花に出会えた「花見山行」に感謝した。

西沢渓谷

渡辺　峯雄

山行日：平成４年５月22日（日）
地　図：２万５千図「金峰山」
行　程：蒟蒻館前駐車場―田部重治文学碑（西沢山荘前・田部祭式典）―渓谷道―旧森林軌道終点―西沢渓谷入り口・解散　※パーティの一部は、田部祭終了後旧森林軌道を大展望台まで散策。
参加者：北原孝浩、古屋寿隆、堀口丈夫、遠山若枝、末木佐登子、小嶋数文、中村光吉、大澤純二、渡辺峯雄、坂井広志様（ＪＡＣ本部）

大正４年５月、田部・木暮・中村らの一行は、笛吹川の遡行を計画し、新宿発11時半発の列車に乗った。夜明けの塩山駅に降り立ち、遥か遠い奥秩父の渓谷を目指し秩父往還を歩く。歩く事が当たり前だった時代とは言え、想像の及ばない健脚である。今は湖底になっている広瀬の集落を通り抜け、笛吹川の遡行が始まる。

私は田部祭に来るたび、車中で先人の偉大さに思いを馳せる。田部の「笛吹川を遡る」によれば、第１回の遡行日は、青い空、青い清流、輝く木々の緑の中、行く先の未知への出会いに心躍らせての入渓だったとのこと。私たちの今日の山行はやや怪しい天気の中であったが、木々の緑は、５月の輝きを存分に放っていた。

大展望台より鶏冠山、木賊山

第５回田部祭に参加した後、西沢渓谷へ向かった。ＪＡＣ坂井副会長の参加もあり賑やかなメンバー編成になった。残念ながら、七ツ釜五段の滝近くで昨年渓谷道が崩落し、その後造られた仮設道が危険であるため、会員数名はネトリ橋から旧森林軌道を散策することになった。

二股吊り橋では、鶏冠山の岩峰が天を突き刺している姿を見ることができた。方杖橋では、皆で手すりにもたれて真っ白な花崗岩と激流を眺めながら記念写真に収まった。ビュースポットの七ツ釜五段の滝が、崩落の影響でいつもの勇姿を現してはくれなかったのは残念の一言に尽きる。その後の仮設道は問題なく通過し、旧森林軌道終点に登り上げて昼飯にした。

帰路、大展望台から甲武信主脈の山塊が、大らかな姿を広げている様に、一同息を呑んだ。初夏のみずみずしさに包まれた、心地よい山の一日だった。

蛾（ひる）ケ岳・大平山

加瀬　尚

山行日：令和４年７月２日（土）
地　図：２万５千図「市川大門」
行　程：大門碑林公園駐車場―四尾連湖登山口―蛾ヶ岳―大平山―蛾ヶ岳―四尾連湖登山口
参加者：渡辺峯雄、小嶋数文、大澤純二、萩野有基子、

渡辺秀子、加瀬尚

山梨百名山の蛾ヶ岳と甲斐百山の大平山を縦走し、帰りは四尾連湖畔で反省会をして駐車場まで戻る山行に参加した。甲府盆地の南に位置する蛾ヶ岳は、戦国時代に城から南を望むと、正午頃に太陽がこの山の頂を指すので「昼ヶ岳」と言われていたのが、いつの頃からか「蛾ヶ岳」となったらしい。晴れていれば、山頂からは富士山、八ヶ岳、奥秩父連山、南アルプスが望めるという贅沢な山である。

緑滴る山道を行く

四尾連湖の駐車場を8時に出発した。登山口からはいきなり登り坂が30分ほど続く。まだ、体が慣れていなかったので、きつく感じた。登りきると大畠山への分岐点に着く。ここから西肩峠までは、尾根伝いに緩やかな起伏の中を歩く。西肩峠からまた急登。急坂に歯を食いしばり、山梨百名山の蛾ヶ岳の山頂に着いた。しかし、期待していた富士山は雲の中、アルプスも見えなかったが、パノラマ台、竜ヶ岳、雨ヶ岳、毛無山を見ることができた。山頂には新しいベンチもあり景色を眺めながら休憩ができる。

蛾ヶ岳から大平山に向かう山道には、危険個所が2か所ある。かなりの急降下、砂地で滑りやすく、緊張をしながら慎重に下っていく。やがて道は大平山を南に捲くようになり、大平山山頂に向かう明確な道は見当たらない。山頂に向かって枝葉をかき分けていくと、程なく甲斐百山の大平山山頂に到着した。広くはないが、富士山側が開けて明るい山頂。ここでも富士山に会うことはできず、お昼休憩をとった。

帰りの大畠山分岐まで戻る途中、雷の音が聞こえ始め、こちらに来るのか心配したが、結局雨には遭わずに済んだ。四尾連峠を経由して四尾連湖に15時下山。四尾連湖畔でリゾート気分を味わいながら、反省会兼懇親会で疲れを癒した後、大門碑林公園駐車場に移動し散会した。

登山道は全体的に整備されていて標識も各所にあった。行程途中で登山者にはほとんど会うこともなく、のんびりと歩くことができた。初参加にも関わらず、アットホームな雰囲気の中、楽しいひと時を過ごさせていただき感謝している。

五竜岳

小宮山千彰

令和4年7月9日（土）・10日（日）

地　図：昭文社5万図「五竜岳」

行　程：9日　八方—八方池—頂上山荘—牛首—大黒岳—五龍山荘（泊）

10日　五龍山荘—五竜岳—白岳—遠見尾根—山麓駅

参加者：小宮山千彰、上田謙治、相川修、窪田光一、手崎喜美子、高橋みゆき

梅雨時に間隙の晴れ間を期待し、高山植物百花繚乱の後立山八方尾根から五竜岳縦走を企画した。

当日は全員の祈りが通じたのか快晴。八方のゴンドラとリフトを乗り継ぎ八方池山荘へ。そこで身支度を整え出発した。快調に八方池まで登り、右手に峻険な不帰を見る。それから上は随所に雪渓が現れ汗をかきながらも涼感たっぷりの登高となる。唐松岳頂上山荘に着いて、残雪をまとった剣岳を眼前に見ながら昼食をとる。時間の都合で唐松岳往復は割愛し、五竜岳への岩稜帯に向かう。山荘前は大勢の登山客でごった返していたが五竜岳に向かうルートには殆ど人がいない。右側が黒部に切れ落ちた岩稜帯を慎重に進む。岩の割れ目に咲く可憐な花が疲れを癒してくれる。4時に五龍山荘に到着。冷たいビールが体に浸みた。

翌朝は朝弁にしてもらい、朝食前に出発。山頂直下でご来光を拝む。素晴らしい銀色の雲海、何と神々しい朝だろう。昨日よりも手ごわい岩稜が現れ、ガスも湧いてきた。山頂での眺望は期待できないか？　岩の感触を味わいながら登高し山頂到着。するとあっという間にガスが切れて360度の大パノラマとなった。正面の剣、左には鹿島槍へ続く稜線、右手には昨日歩いた唐松までの岩稜、遠くに日本海まで見

岩稜続く

える。貸切りの山頂で感激の時を過ごし、慎重に下山した。五龍山荘で食堂を使わせてもらい、味噌汁までいただいて朝弁を食べた。心からの感謝を伝えて山荘を後にした。

長い遠見尾根の下山である。天気は快晴で、暑い、暑い。雪渓の雪を帽子の中に入れて頭を冷し、皆ではしゃぎながらアルプス平駅に到着。その後、八方温泉で汗を流し、帰途についた。メンバーと天候に恵まれ、思い出に残る素晴らしい山行であった。

青木ヶ原樹海～三湖台
（第3回家族登山）

古屋　寿隆

山行日：令和4年8月11日（木・祝日）
地　図：2万5千図「河口湖西部」
行　程：西湖野鳥の森公園（集合）―青木ヶ原樹海―紅葉台―三湖台―西湖民宿村―コウモリ穴―西湖野鳥の森公園（解散）
参加者：古屋寿隆、渡辺峯雄、北原孝浩、小宮山稔、遠山若枝、手崎喜美子、県山岳連盟3名、看護師1名、親子15名

今年度の第3回家族登山は、当支部と山梨県山岳連盟で共催して実施することになった。

午前8時30分、西湖野鳥の森公園に集合し、9時に№22標識から樹海に入る。樹海といえば不安がる人も多いが、樹海のこのコースにはしっかりした道があり、案内プレートもたくさんつけられている。また地元のネイチャーガイドが案内している場面に出くわすことも多い。そのプレートを確認しながら最初の目的地竜宮洞穴に向かう。

三湖台にて

№7・№8の4差路で休憩後、すぐの№9の二俣を左折する。県道を渡り十字路を右折すれば、冷気漂う竜宮洞穴の氷室に至る。この溶岩洞窟の中に入り「せの海神社」本宮を見学、お参りしてから、紅葉台に向かう。いったん山の斜面を登り上げ、歌碑のある展望台から初めて富士を眺める。さらに東海自然遊歩道を東進すると売店に到着。ここまでは南側国道139号線から車で入ることもできる。子どもたちと一緒にアイスキャンディを舐め、小休止してから、15分の緩やかな登りをみんなで進むと天が開けて目的地の三湖台の広場に到着する。

三湖台には数年前、新しく板敷の広い展望台が設置された。ここから南には富士の大きな雄姿が、東には河口湖や十二ヶ岳の岩場が、北側眼下には西湖とその奥に御坂の山々、西には貞観噴火で埋め立てられた広大な青木ヶ樹海が精進湖や遠く本栖湖まで広がっている。1300年前のここには広大な「せの海」があったのだ。親子そろって昼食後、記念撮影。紅葉台までいったん戻り、西湖民宿村へ出て、コウモリ穴まで再び樹海の中を歩いた。

子どもも大人もヘルメットを着けて、溶岩流の痕跡生々しいコウモリ穴の洞窟を探検し、本日の家族登山は終了した。子どもたちにとって、夏休みの良い思い出になればと願う。

横尾山

渡辺　峯雄

山行日：令和4年10月16日（日）
地　図：2万5千図「瑞牆山」
行　程：金山平キャンプ場―信州峠―カヤトの原・展望台―横尾山―信州峠―金山平キャンプ場
参加者：磯野澄也、小嶋数文、相川修、北原孝浩、大澤純二、渡辺峯雄、末木佐登子、中川惠美子、岩間明子、渡辺和美、服部俊樹、大原光彦、渡辺秀子、中澤智子、広瀬英里子、小尾智子、坂井広志様・柏澄子様（JAC本部）

第63回木暮祭記念山行は、昨年までの五里山から、より安全な横尾山に変更した。秋の冷気漂う金山平キャンプ場に、参加者が仲間の車に乗り合わせて集合。今年は、支部員に加え、岳連の仲間、遠方より本部副会長の坂井様、常務理事の柏様もご参加くださり、総勢18名の賑やかな編成になった。磯野リーダーの進行で簡単な自己紹介を済ませ、数台の車に分乗して登山口の信州峠に向かった。

峠の駐車スペースに車列を作り、向かいの登山口階段

から登山道に分け入る。ミズナラ、クヌギの多い広葉樹林の下、気持ちの良い山道を登る。少し早すぎたと思われた紅葉も程よく色づき、木漏れ日を受けて木の葉が輝く様に感嘆の声がもれる。梢の間から青い空も垣間見える。これらは登山を一層楽しくする要素である。２班に分けた隊列だったが、弾む会話と笑いに夢中になるうち、知らぬ間に班分けは解除されていた。足元に岩石がごろついた急登に30分ほど汗を流し、期待の展望地・カヤトの原に飛び出た。眼前に見えるはずの瑞牆山の岩峰と奥秩父の名主・金峰山は、山裾を巻く層雲で全容が見えなかったのは残念だったが、南に広がる山裾と、それに続く山並みに心が躍った。

秋晴れの下で

小休止した後、ススキの茂る尾根筋を少し登り、一息で横尾山の頂上に到着した。少し窮屈な頂上から南に開けた展望を確認して、早々に帰路に就いた。午後から予定されている木暮祭の開始時間が気掛かりだったせいである。途中のカヤトの原で昼飯をとり、道標を囲んで全員が集合写真に収まった。

急ぎ足で下山して、信州峠を後にした。

五宗山（ごそうざん）

磯野　澄也

山行日：令和４年10月29日（土）
地　図：２万５千図「人穴」
行　程：本栖湖県営駐車場―猪之頭トンネル―猪之頭峠―熊森山―五宗山―熊森山―猪之頭峠―猪之頭トンネル―本栖湖県営駐車場
参加者：磯野澄也、中川恵美子、渡辺峯雄、加瀬尚

身延町富士川クラフトパークから見ると、左の五老峰（ごろうぼう）（１６１９ｍ）に対し、右側に同等の高さの山容を誇る五宗山（１６３４ｍ）が奥手に見える。天子山脈の山塊は猪之頭峠を境に北部・南部に分かれ南部側の最高峰になる。奥深さゆえ存在感の割には余り知られていない静寂な山である。

登山口へのアプローチは、下部温泉から湯之奥経由が

一般的であるが、林道工事中のため富士宮市側ルートとし本栖湖県営駐車場へ７時に集合する。猪之頭より林道に入り、湯之奥猪之頭トンネルに50分程で到着、８時過ぎに登山道に分け入った。取付きはトンネル手前より右側をトラバース。痩せた尾根を慎重に登り、25分で猪之頭峠へ。ここから熊森山へは標高差２００ｍであるが、かなりの急登だ。東に朝霧高原を前庭にした富士山、その右側に愛鷹山。時折、パラグライダーが空に舞う。北には尾根伝いに紅葉の雪見岳・金山・毛無山が連なる。西側には南アルプスが垣間見える。これらの眺めを楽しみながら、40分で標高１５７５ｍの熊森山へ着く。

右が五宗山、左は五老峰

熊森山から南の県境尾根は、長者ヶ岳・天子ヶ岳へと続く。五宗山へは西側に連なる身延町・南部町の町境尾根を行く。色とりどりの尾根を下り、北側が切れ込んだコルに着く。特にハウチワカエデの真っ赤が目を引く。ここから蝙蝠山の異名を持つ、五老峰・大ガレの頭・毛無山が眼前に広がり圧巻だ。小さなピークを越え、尾根伝いに五宗山に向かう。尾根を登りきると広い台地形の頂上部へ。さらに２００ｍ程平地を歩いて三角点の山頂へ着く。熊森山からは１時間20分の行程。昼食をとりながら静寂な山を味わう。山頂看板も手書きの素っ気なさが良い。

11時40分、下山開始。往路を下る。南に向かう尾根は三石山へと至る。１５５０ｍ辺りから微妙に尾根が分かれるため、注意が必要である。約１時間で熊森山へ。猪之頭峠への下山も見極めが大事。熊森山トンネル登山口に13時45分に着いた。

五宗山は、天子山脈南部の代表格の山である。その奥ゆかしさを味わってほしい。

苗敷山

能津　悦治

山行日：令和４年11月３日（木・祝）
地　図：２万５千図「韮崎」
行　程：穂見神社里宮―石鳥居―林道分岐―穂見神社

奥宮―苗敷山・旭山―穂見神社里宮

参加者：古屋寿隆、小嶋数文、能津悦治

甲府盆地の西側に位置する韮崎市付近は、山好きな人にとっては最高のロケーションの地である。富士山と八ヶ岳を一直線上に結んだその両側に深田久弥終焉の山・茅ヶ岳と、展望の別天地・甘利山がある。甘利山の上には鳳凰三山が聳えるが、今回の山行は、甘利山の下にある伝説の山・苗敷山（約１０１０ｍ）と旭山（１０３７ｍ）である。

穂見神社奥宮の前で

穂見神社里宮から参道を一時間半程歩くと、「昔々、甲府盆地が湖水であった頃、甲斐の国を平地にして人民の繁栄を図ろうと、山岸を蹴抜いて甲府盆地を今の様な肥沃な土地にし、五穀万物の種をまき、苗を国中に敷いた仙人を祀った穂見神社奥宮」が、ひっそりと私たちを待っていた。苗敷山は、神社のすぐ上だが展望はない。不明瞭な道を10分程歩いた旭山からは、大好きな甘利山の紅葉を見る事ができた。

私の今回の山行の一番の目的は、山寺仁太郎著『甘利山』にある高野槙を見ることだった。

「戦後、生け花ブームが起こり、その材料に使われる高野槙の枝が高値になり、村の若者が飲み代を稼ぐ為に、木の枝の残っているてっぺんまで登ったが、何度も登られている為にツルツルになった枝に挟まり、降りられなくなり、翌朝ようやく発見され、村中の笑い者になった」

高野槙は、その後は枝を折られる事も無くなったのか、今は枝の生い茂った見上げるほどの高木になっていた。

なお、穂見神社は食べ物確保が一番の時代から、五穀豊穣を願う神社である。韮崎の周辺には、七里岩下のパワースポットの穂見神社や、20種類程のお神楽を舞い続ける奇祭の伝統を持つ南アルプス市高尾の穂見神社もある。この舞は私が子供の頃見た祇園祭を彷彿とさせるもので、一見の価値がある。これらの３か所の穂見神社を巡る山行も楽しいかもしれない。

間近にあったのに、有名な甘利山の影に隠れて山のシルエットがはっきりしなかった苗敷山。これからは車でふもとを通るたびに、「おはよう苗敷山。今日もよろしく！」と声を掛けたいものである。

丹沢山

手崎喜美子

山行日：令和４年11月27日（日）

地　図：２万５千図「秦野」「大山」

行　程：大倉登山口―見晴茶屋―駒止茶屋―堀山の家―花立山荘―塔ノ岳―丹沢山―塔ノ岳―堀山の家―大倉下山

参加者：黒沼英美、平松清子、小宮山千彰、相川修、高橋みゆき、石澤貴子、上田謙治、手崎喜美子

５時にみさか桃源郷公園に集合。初冬を思わせる様なキンと冷えた空気と、真上には沢山の星が綺麗に見えた。車２台に分乗し登山口を目指す。本来なら駐車場の予約はできないらしいが、丹沢山の常連であるリーダーが場所を確保してくれていた。

丹沢山と言えば、通称バカ尾根と呼ばれる、誰が名付けたか分からない大倉尾根が有名である。私自身ずっと階段地獄だと思い込んでいたルートである。しかし歩き出して１時間程、赤・黄・緑に彩られた森に包まれ、カサカサと自分の足音を聴きながらの登山を楽しんでいることに気がついた。紅葉を期待していなかったので何度も立ち止まって写真を撮った。なだらかな尾根歩きや、頭が真っ白の、普段見る事のできない方角からの富士山を堪能できた。途中、塔ノ岳の尊仏山荘に歩荷７５００回以上している畠山さんに２度お会いした。短パンから覗かせる太ももが隆々としていた。

落ち葉散り敷く登山口

11月下旬だというのに、この日は暑かった。早々に一枚脱ぎ半袖に。花立山荘で買った炭酸が美味しかった。登山道に山小屋が沢山あるのは魅力的だと思った。

塔ノ岳に到着した

時はガスが上がって来て、一瞬だけ富士山が見えた。丹沢山への道は何度か偽ピークに騙され、足元の泥濘に注意しながら歩いた。笹原の気持ち良い木道の稜線を1時間程歩くと、丹沢山山頂に。みやま山荘で登山バッジを購入。ピッケル、アイゼン、お花のデザインのバッジは良く見かけるけど、鹿モチーフは初めて見た。広いベンチでお昼休憩をした。下山は同じ道を。大倉尾根は木道以外にもザレガレや浮石があったので足元に気を付けながら歩いた。

今回の支部山行で考えさせられる場面があった。未熟な私には反省や課題も多く、先輩方のアドバイスの下、今後の活動に活かしたいと思った。

焼津アルプス

磯野　澄也

山行日：令和5年1月9日（月・祝日）
地　図：2万5千図「焼津」
行　程：富士川クラフトパーク第二駐車場―花沢駐車場―花沢山―日本坂峠―満願峰―鞍掛峠―高草山―花沢駐車場―焼津市―富士川クラフトパーク駐車場
参加者：磯野澄也、北原孝浩、川島万里子、上田謙治、鶴田陽子、萩野重行、鶴田輝世

静岡県の海岸沿いの山々は低山であるが、意外にアップダウンが激しく距離も長くて結構ハードである。焼津アルプスもその一つ。近接化した静岡の海風景と海の幸を堪能することと併せ、花沢山・満願峰・高草山縦走フルコースを計画した。

富士川クラフトパークから中部横断自動車道に乗り、花沢駐車場へ。花沢の里は、山の谷地にある30戸ほどの山村集落である。奈良時代の東海道と言われる「やきつべの小径」の上り坂の途中にあり、石垣と板張りの建物と山林など周辺の自然環境とが一体となって、独自の歴史的景観を作り出している。

8時35分発。その町並みの風情を楽しみながら登る。温暖の地方であるためか、既にロウバイ・スイセンが咲き、何故かモミジは紅葉のままで、真冬なのに不思議な世界だ。自動車道から山道に入り、針葉樹・広葉樹の混成林の中、高度を稼ぐ。2時間ほどで一つ目のピーク花沢山（449m）に着く。富士山と静岡市内の景観が素晴らしい。

ここから日本坂峠へ下る。峠には峠の穴地蔵（イボ取り地蔵）があり、触れて祈願すると治るようだ。満願峠へは、尾根の上り下りの繰り返しが続いて結構きつい。尾根上に日本一の展望地・家康ベンチがある。確かに富士山・愛鷹山・日本平・静岡市街地・東名高速道・駿河湾の景観は素晴らしい。家康が、駿河を終焉の地としたこともうなずける。

12時15分、満願峰（470m）にて昼食をとる。遠くに、南アルプス南部・山梨県南部の山々、箱根山・伊豆半島等360度の景観が楽しめ、天候も良く皆笑顔がこぼれる。

家康ベンチからの眺め

満願峰からは南側に向かい、鞍掛峠へ。峠からは、南西に延びる尾根の小ピークを二つ（大ベラ山とある）越えて高草山に着く。時刻15時。双耳峰で、東峰と西峰がある。東峰には高草山大権現が祀られ、西峰には三角点標高501mとソロモン群島の戦没碑が。海の向こうの美しさと裏腹に、悲しい歴史を今でも伝え続けている。

さあ、下りだ。標高差470mを焼津市街と焼津港・駿河湾を眺めながら一気に下る。登山道沿いは静岡に大変多い高野槇が目立つ。また荒れた茶畑も目に着く。ここも後継者不足なのか。時折新幹線が眼下を通過し、海が近づき建物が大きく見えて来ると、平坦地に入り里山の花沢の里に着く。予定ピッタリの16：30着。約13㎞、8時間の長い行程だったが、全員健脚で歩調が合い楽しい山行だった。

今回の第2の目的である海の幸を、のっけ家焼津さかなセンター店にて舌鼓。税込み2035円の海鮮丼に、山と共に一同満足して帰路へ向かった。

雪山ステップアップ講習第1回・北横岳

小宮山千彰

山行日：令和4年2月5日（日）
地　図：2万5千図「蓼科」
行　程：北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅―北横岳―縞枯山荘付近―山頂駅
参加者：小宮山千彰、上田謙治、小嶋数文、服部俊樹、

平松清子、飯島典子、佐藤智子、名取艶子

敷島総合文化会館駐車場に8時に集合し、車3台に分乗して北八ヶ岳ロープウェイに向かった。ロープウェイは日曜日だけあって混雑していたが、発車間隔が短いので程なく山頂駅に着くことができた。駅の外で身支度を整えてアイゼンを装着した。今回は雪山初心者が何名かいたので、まずアイゼンの着け方から教える。準備万端、さあ出発！

坪庭は少し風があるものの天気は快晴。アイゼンが小気味よく雪に食い込む。坪庭を過ぎ樹林帯の登りに入る。雪は一層深く、程よく締まっていて快調である。眼下に坪庭を見ながらの休憩をはさみ、北横岳ヒュッテに到着。ここでストックを仕舞いピッケルに持ち替える。ピッケルの使い方を指導しながら、急登をあえいで間もなく北横岳南峰に到着。稜線は風が強いが、「八ヶ岳では今日は弱い方だ」と話すと皆驚いていた。

八ヶ岳ブルーの下で

エビの尻尾で雪化粧した樹林の中を北峰へ。空は快晴の八ヶ岳ブルー。眼前に蓼科山、双子岳の向こうに浅間、はるか遠方に北アルプスの稜線。目を転じれば南アルプス、御岳、乗鞍と、360度に居並ぶ山々は枚挙にいとまがない。全員大感激で写真を撮っている。初めての雪山でこんな経験をすれば、雪山の虜になるのは間違いないだろう。

山頂を後にしてヒュッテまで下り昼食。その後樹林帯の往路を坪庭まで降り、そこを横切って縞枯山の北面で雪訓開始。深雪のラッセル、滑落停止の基本姿勢、ザックを背負いながら前方に一回転して滑落を止める実践など、全員が雪まみれ、大はしゃぎで取り組んだ。

美しい景色と雪に名残は尽きない様子だったが、ロープウェイで下山し帰路についた。敷島に着いて簡単な解散式を行い、講習は無事終了した。今回は講習1回目。雪に親しむ事を主眼に置いた山行だったので目的は達成できたと思っている。参加者全員が、雪山を満喫できた有意義な講習だった。

公益事業

第8回やまなし登山基礎講座

小嶋　数文

平成26（2014）年に国民の祝日「山の日」が制定され、「山の日」制定記念事業として、翌年から始めた「やまなし登山基礎講座」は、昨年コロナまん延のため中止されたが、今年は2年ぶりの開講となった。前回までは、山梨学院生涯学習センターの全面的なバックアップのもとに実施してきたが、今年は会場確保・チラシ作成・募集事務・講座運営などすべての実務と経費を山梨支部が単独で行い、更に将来的にウェブ発信も考慮した形での講座となった。受講生は14名、会場は甲府市総合市民会館・大会議室で、9月8日から10月6日まで、机上講義5回、更に実践登山3回で実施された。講義内容は、以下のとおりである。

第1回　9月8日（木）
オリエンテーション、日本山岳会について、山の天気と観天望気

第2回　9月15日（木）
安全安心登山の基本、装備・服装・食糧

第3回　9月22日（木）
地図読み、山の自然保護

第4回　9月29日（木）
山岳遭難、山の救急医療

第5回　10月6日（木）
山の文学、山梨の登山史、山岳写真、修了式

更に地図読み、ロープワークとセルフレスキューを主眼とした実践登山として高川山（10月1日（土））、茅ヶ岳（10月30日（日）、11月13日（日））を実施。

受講生の年齢は20歳代から70歳代、登山歴も初心者から20年以上と幅があったが、講座のレベル、内容、回数等概ね好評であった。また実践登山も好天に恵まれ、登山技術の習得のみならず、受講生、スタッフの親睦も深めるものとなった。すでに来年度に向けて、今年の講座の反省点などの検証を始めており、更に充実した豊かな講座の開講を目指している。

今回も受講生に講座についてアンケートを実施したが、その集計結果概要は次の通りである。

（受講生14名中13名回答）

集中した雰囲気漂う講座

1 受講生の構成など

(1)受講者の性別	人数
1.男	5
2.女	8

(2)受講者の年齢	
1.20歳代	1
2.30歳代	1
3.40歳代	1
4.50歳代	5
5.60歳代	3
6.70歳代	2

(3)山岳会(登山グループ等)加入状況	
1.入っている	3
2.入っていない	10

(4)登山する場合	人数
1.単独登山	4
2.グループでの登山	4
3.単独・グループほぼ同じ	5

(5)登山歴	
1.3年未満	3
2.4年～9年	5
3.10年～15年	1
4.16年～20年	0
5.20年以上	3
6.その他	1

2 講座内容についての感想

(1)講座全体について	人数
1.大変良かった	5
2.良かった	8
3.普通	0
4.あまり良くなかった	0
5.良くなかった	0

(2)講座のレベル	
1.丁度良かった(初級編)	11
2.もう少し上(中級編)	1
3.もっと高い(上級編)	0
(未回答)	1

(3)講義の内容	
1.良かった	11
2.登山知識・技術・実践登山のみ	0
3.他の分野・項目も希望	0
(未回答)	2

(4)講座日数、回数	
1.増やしてほしい	1
2.今回程度で良かった	12
3.減らした方が良い	0

(5)1回あたりの講座時間	
1.適当である	13
2.長くしてほしかった	0
3.短い方が良い	0

(6)実践登山	人数
1.増やしてほしかった	3
2.今回程度で良かった	6
3.少なくて良いと感じた	0
4.無くても良い	0
5.わからない	4

(7)ロープワーク、セルフレスキュー	
1.役に立った	2
2.もっと時間をかけて学びたかった	4
3.興味・関心が有る	3
4.役に立たなかった	0
5.興味・関心が無い	0
6.わからない	2
7.その他	2

(8)来年度の講座について	
1.再度受講してみたい	4
2.受講する考えは無い	1
3.わからない	8

(9)再度受講してみたい人のみ回答	
1.登山知識、技術のさらに上を学びたい	4
2.今年理解できなかったことを再度学びたい	0

3 この講座をどのような方法・手段で知ったか

	人数
1.日本山岳会のホームページを見て	2
2.図書館などでチラシを見て	5
3.人から聞いて	2
4.新聞	2
5.山の日イベントのチラシを見て	1
6.芦安のパンフレットを見て	1

4 日本山岳会について

(1)関心の有無	人数
1.大いにある	2
2.ある	5
3.無い	6
4.どちらともいえない	0

(2)入会について	
1.入りたい	1
2.前向きに考えたい	3
3.入りたくない	2
4.わからない	6

(3)山梨支部で実施する山行などの行事に参加	
1.参加したい	3
2.行事内容によっては参加	8
3.参加したくない	1
4.わからない	1

山の日制定記念事業 2022

第８回やまなし登山基礎講座

山梨県・[令和４年度やまなしで過ごす「山の日」]関連イベント

時	日程	内容	講師
①	9/8（木）	A オリエンテーション B 日本山岳会について C 山の天気と観天望気	古屋　寿隆（日本山岳会山梨支部理事長） 北原　孝浩（日本山岳会山梨支部支部長） 小宮山千彰（日本山岳会山梨支部山行委員長）
②	9/15（木）	A 安全安心登山の基本 B 装備・服装・食糧	大澤　純二（日本山岳会山梨支部会員） 北原　孝浩（日本山岳会山梨支部支部長）
③	9/22（木）	A 地図読み B 山の救急医療	荏原由美子（日本山岳会山梨支部会員） 角田　元（日本山岳会山梨支部会員・医師）
④	9/24（土）	実践登山 1（茅ヶ岳） （地図読み・ロープワーク・セルフレスキュー）	古屋　寿隆（日本山岳会山梨支部理事長）
⑤	9/29（木）	A 山岳遭難 B 山の自然保護	細田　茂樹（山梨県警察本部生活安全部地域課・山岳警備安全対策隊隊長） 鹿野　澄也（日本山岳会山梨支部副支部長）
⑥	10/1（土）	実践登山 2（高川山） （総合登山）	小宮山千彰（日本山岳会山梨支部山行委員長）
⑦	10/6（木）	A 山の文学 B 山梨の登山史 C 山岳写真 修了式	矢崎　茂男（日本山岳会山梨支部理事） 深沢　健三（日本山岳会山梨支部顧問） 北原　孝浩（日本山岳会山梨支部支部長）

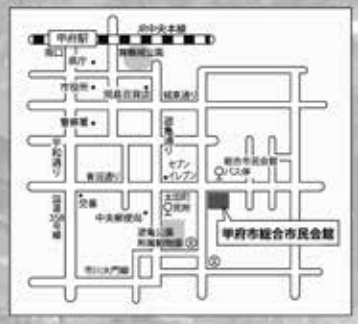
※ 諸事情により、講師や内容が変更になる場合があります。

会　場：甲府市総合市民会館（甲府市青沼 3-5-44・電話 055-231-1951）受付　18:30～
9/8　開講時間　19:00～21:10　3 階大会議室
9/15　〃　〃　〃
9/22　〃　〃　〃
9/29　〃　〃　〃
10/6　〃　〃　〃

対　象：登山経験の浅い初級者、登山の基礎を学び直したい中級者で、全講座に参加できる方
定　員：25 名（10 名に満たない場合は中止します）
受講料：12,000 円（テキスト代・資料代・山岳保険代など）

★ 地図読みの地図、コンパス等お持ちでない方には別途注文を受け付けます。
★ 実践登山の交通費・行動食は、各自ご負担願います。
★ 第５回 9/29 は一般公開します。
★ コロナ感染防止のため、マスク着用、消毒、検温などをお願いします。
★ 自家用車でご来場の方は、会場駐車場をご利用ください。

お申し込み方法：はがき・メール・ファックスで、氏名・男女の別・生年月日・〒住所・電話番号を記入して、下記にお申し込みください。
お申し込み先：
日本山岳会山梨支部　事務局　古屋寿隆
〒400-0118 甲斐市竜王 3022-1
メールアドレス：ymn@jac.or.jp
ファックス番号：055-276-8004
電話 090-4539-3059
お申し込み期間：7 月 25 日（月）～8 月 25 日（木）
ただし、定員になり次第締め切ります。



主催：公益社団法人　日本山岳会山梨支部

第５回田部祭

渡辺　峯雄

奥秩父をこよなく愛し、笛吹川源流域を世に広めた登山家であり英文学者の田部重治の遺徳を偲ぶ第５回碑前祭が、令和４年５月22日（日）に行われた。祭典へ参加する支部員等は西沢渓谷蒟蒻館南の駐車場広場に集合した。この広場の西側１００ｍのところに、笛吹川が流れている。田部の紀行「笛吹川を遡る」によれば、田部等は、広瀬の集落を通り雁坂峠に向かう道を分け笛吹川に沿って道を求めながら歩いたとのことである。今我々が行く道は、車が通れる位に広い散策道になっているが、当時はずっと細い山道を渓谷沿いに歩いたのだろう。ただ、渓谷の両岸より溢れる木々の緑と流れる渓流の勢いは、田部等の時代と変わらないようである。

会場である田部重治文学碑は、ナレイ沢を渡りネトリ大橋を左に分けた先の西沢山荘前に、落葉松林に囲まれるようにしてある。既に今日の主催者である山梨市観光協会三富支部のスタッフが、揃いのユニフォームで式典の準備に忙しく動いておられた。パラソルを立てた横の受付台には、西沢渓谷の案内パンフと今日の碑前祭の案内が用意され、今は廃屋同然になってしまった西沢山荘の壁面を利用して、田部・木暮等の３回に渡る笛吹川上流東沢渓谷の遡行記録が掲示されていた。掲示の中に、田部が縁に座り、おしゃれな帽子をかぶり前かがみになってゲートルを巻きわらじの紐を結んでいるいつもの山旅姿の写真があった。

田部重治文学碑を囲んで

田部祭は、ＪＡＣ山梨支部が行政に働きかけ実現し、今回で５回目を迎えた。支部では、奥秩父西端の金峰山を望む増富金山平で、木暮理太郎を偲ぶ碑前祭を長く続けている。笛吹川の川辺での田部重治を偲ぶ碑前祭の開催によって、奥秩父開拓のパイオニア二人を等しく顕彰することができるようになったのは大変喜ばしいことである。

式典では、山梨市観光協会三富支部長・雨宮巧氏から「この祭りを継承し、田部等が切り開いたこの秩父の山と渓谷の大自然を後世にまで守り抜きたい」との力強い挨拶があった。その後、日本山岳会山梨支部北原孝浩支部長により碑前への献花が行われた。簡素ではあったが参加者の心に残る式典であった。なお今回は、日本山岳会本部より坂井広志副会長にも参列していただいた。田部祭が、ローカルな式典ではなく日本山岳会を始め登山界や文学会などに広く認知される祭事になることを願う。

第63回木暮祭

北原　孝浩

第63回木暮祭を、10月16日快晴の下に開催した。

木暮祭は、奥秩父の山々を登山の対象として世に広く紹介した木暮理太郎氏（日本山岳会第3代会長）の遺徳を偲んで、毎年10月の第3日曜日に北杜市須玉町の金山平に建つ木暮理太郎顕彰碑の前で行われている。今年は昭和35年の第1回から数えて63回目になった。

地元北杜市須玉総合支所長内藤肇氏、公益社団法人日本山岳会からは副会長坂井広志氏、常務理事柏澄子氏のほか日本山岳会山梨支部員や山梨県内の山岳関係者多数が参加された。

式典は、JAC山梨支部監事小宮山稔（山梨県山岳連盟会長）の司会進行で行われた。献酒、献花の後に、主催者として小森良直（増富ラジウム峡観光協会事務局長）、北原孝浩（JAC山梨支部長）、小宮山稔（山梨県山岳連盟会長）がそれぞれ挨拶をした。

木暮碑の前で

来賓挨拶として坂井広志副会長が、日本全国で行われている多彩な「山岳祭」についての紹介とJACとしてのかかわりについて説明された。これに関連して山梨支部長は主催者挨拶で「木暮祭は支部の長い歴史において最も重要な行事の一つとして位置付けられていることを入会歴浅い会員に伝え、木暮祭を将来に繋げてゆくことに努めたい」と述べた。次に山梨県山岳連盟副会長磯野澄也（JAC山梨支部副支部長）の発声で献杯をし、式典はつつがなく終了した。

木暮祭恒例のミニ講演は、内藤順造山梨支部顧問が「木暮理太郎の盟友」をテーマに行った。盟友とは言わずもがな田部重治のことである。二人は「奥秩父の山や渓谷の素晴らしさを世に紹介した」とされている。講演では彼らの著書には「秩父の山地に二人の足が向かうようになったのは必然的の運命であった」（木暮理太郎）とか「内心この人と山に登ろうと考え始めた」（田部重治）との記述があり、さらに「余に登山の趣味を注入し呉れし人」（田部重治）とまで言うほど二人の深い絆を感じるとともに、二人で行く山旅がいかに充実したものであったかが理解できると紹介された。そして『山の憶ひ出』（木暮理太郎）や『山と渓谷』『日本アルプスと秩父巡禮』（田部重治）には、彼らが感じ考えるそれぞれの奥秩父が凝縮されていると述べて講演を締めくくった。

碑前祭の後の「ほうとうを食う会」が3年ぶりに復活し、熱々のほうとうに舌鼓を打ちながら談笑の輪が広がった。

レインジャー活動報告

古屋　寿隆

例年どおり山梨県山岳連盟では、山梨県からの委託事業として山岳レインジャー活動を実施することになった。当支部では4山域において、山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例で特定された希少高山植物および絶滅危惧種等の調査を行った。

1　5月2日　三ツ峠（探索調査・日帰り）
　メンバー：古屋寿隆、北原孝浩、上田謙治、平松清子
　コース：金ヶ窪沢―木無山―屏風岩―三ツ峠山―御巣鷹山周回
　時期が早かったせいか、登山道でのスミレ数種以外、屏風岩基部での特定種発見できず。

2　6月20日・21日　鳳凰三山（定型路②調査・1泊2日）
　メンバー：古屋寿隆、上田謙治

コース：御座石鉱泉―燕頭山―鳳凰小屋（泊）
―賽の河原―地蔵ヶ岳―往路下山

満開のカモメラン・葉のみのホウオウシャジンが少数株、葉のみのタカネビランジは多数株、イチヨウランは激減したが満開で散見された。

3　7月1日　瑞牆山荘～富士見平小屋（探索調査・日帰り）

メンバー：北原孝浩、平松清子、臼田昌美

かつては林道上部の沢筋にカモメランの群生地が広がっていたが、ここ数年は見つけられず。今回も葉のみ30株程度。

4　8月24日・25日　北岳（定型路①調査・1泊2日）

メンバー：古屋寿隆、上田謙治

コース：広河原―白根御池小屋―草すべり―肩の小屋（泊）―北岳―トラバース道往復―八本歯コル―大樺沢左俣―二俣―白根御池小屋―広河原

標高3100mあたりにシロバナノタカネビランジ・キタダケヨモギが少数株満開、2700m前後にキタダケトリカブト・シロバナノタカネビランジが多数株満開であった。

日本山岳会創立120周年記念事業・全国山岳古道調査短信

金峰山古道（御嶽道）

小宮山千彰

本部から出された調査指針を確認したり、2人以上でGPSデータを取得保存するという調査方法の難題に対応したりする必要から、メンバーの日程が合わず、調査は遅々として進んでいないのが現状である。ただし、メンバーは個々に古道を歩き文献で調べるなどして研究を進めている。今後はできるだけ早く調査班の会合を持ち、計画と分担を再確認して調査を軌道に乗せたいと思っている。

課題は、本部に提出する原稿を作成するにはパソコンやスマートフォンの豊富な知識が必要とされることである。古道を歩いて調査できても、それをデータとして編集し本部に的確に報告できるか不安である。とは言え、諸先輩が調査された記録を活用させていただき、年内には目途を付けたいと考えている。調査班メンバーをはじめ、支部員各位の協力をお願いする次第である。

南アルプス北部山岳古道

古屋　寿隆

平成4年度は諸般の事情により、実地調査は行えなかった。この間本部からは、富士山吉田口登山道、早川町新倉～伝付峠～二軒小屋の2ルートを追加するよう要望があり、対象古道は11本となった。よって平成5年度は、4月以降鋭意山岳古道調査の再開を期している。

まず、一昨年調査した芦安～ドノコヤ峠～奈良田の調査を完成させ、つぎに右記2ルートを調べ、さらに湯道関係の西山峠越え、足慣峠越え、十石峠越えの3本を完成させたい。

なお、夜叉神峠～杖立峠～五葉尾根、夜叉神峠越～鮎差、赤薙沢～早川尾根越えは完全に廃道またはルートの崩壊激しく、できたら予備調査を行い、実査の可否を判断したい。

残りは荒川本谷、アーネスト・サトウの登山道の2本である。

随　想

学校登山をつなぐ

三枝　孝太郎

ある先輩教師の勧めもあって、地理学者の志賀重昂（しげたか）が著した『日本風景論』（明治27年）に触れる機会を得た。本書は、福沢諭吉の『学問のすゝめ』と並び称される明治の名著である。この中で志賀は、「学校教員たる者、学生生徒の間に登山の気風を大いに興作することに力（つと）めざるべからず」と、登山を学校教育に取り入れるべきことを提唱している。明治の末から全国各地で盛んになった学校登山は、この言葉に触発されたものである。しかし近年、安全優先の風潮を背景に、登山が学校教育から排除されつつある。山国・山梨県でも、登山を実施している学校が少数派になってしまったことは寂しい限りである。

北杜市立小淵沢小学校は八ヶ岳南麓に校舎を構え、旧小淵沢町内の2校が統合した2年後の昭和52年から、編笠山への登山を実施している。統合前からそれぞれの学

校で行っていた登山を継承する形で開始された行事であって、その歴史は65年に及ぶ。

登山には、次のような「ねらい」がある。

(1)体力の限界に挑戦し心身を鍛える。
(2)目的地を極めた時の大きな達成感を感得させる。
(3)友達と励まし合って、よりよい人間関係を育てる。
(4)自然を愛し大切にしようとする心情を養う。
(5)地図を利用しながら、標高・気候・植生などを学習する。
(6)高い所から、郷土の位置・地形・土地利用等について学習する。

これらは、130年も前に志賀が学校登山を奨励した意図と合致するものであり、学校登山の歴史を繋いできた重い文言である。

登山は、緑のみずみずしい初夏に行われる。1・2年生は「雲海」と呼ばれる展望台まで、3年生はルート中唯一の湧水地「押手川」まで、そして4年生以上は山頂を目指す。ただしこの3年は、コロナ禍のため、中止または規模を縮小して実施している。

早朝、学校に集合し、スクールバスなどで登山口の観音平へ移動。出発式を行い、それぞれの目的地へ向けて出発する。補助員として、地元の山岳会の方々の協力を仰いでいるほか、保護者にもサポートを呼びかけている。保護者の参加数は年々増加し、多い年には100名程が隊列に加わるようになった。子どもたちを励ましたり時には介護したりする役割を担いながら、子どもたちと共に登山の楽しさを味わう姿が印象的である。学校登山は、地域・保護者の間にすっかり定着しているのである。

編笠山登頂の歓喜

1・2年生の帰校は2時半、3年生は3時半、4年生以上は4時半である。充実感と心地よい疲労を感じながら、子どもたちは家路につく。保護者や山岳会の方々、そして職員もまた同様である。

※　※

小中学生時代に登山を体験する意義は大きい。意義とは、「ねらい」が語る6項目そのものである。「大きな達成感」や「友達と励まし合」うことは、自立し協調して社会を生きていく力の基盤となる。また「自然を大切にしようとする心情」は、環境保護に目を向ける契機になる。小淵沢小の子どもたちは、総じてねばり強い精神力を持っている。協力してものごとに取り組む態度や、自然に対して鋭敏な感性を身につけている。学校・保護者・地域は、登山の教育的価値をここに見出し、歴史を絶やさぬ努力をしているのである。

これからも安全管理を徹底すると共に、児童や職員の過重負担にならないよう留意し、地域や保護者の力を借りながら学校登山を継承していきたいと考えている。

（筆者は小淵沢小校長）

山梨の山の魅力を再び
―『甲斐百山』再版―

矢崎　茂男

支部定期委員会の席で、「山梨百名山」の選外になった山から100座を選んで世に送り出そうと提唱されたのは、平成21年のことである。選定、実地調査、執筆分担、原稿作成等の作業は難航したが、平成30年に支部創立70周年記念事業の一環として作成することが確認され、翌令和元年12月、選外100山集は『甲斐百山』として世に出た。起伏の激しい難峰縦走の末の発刊だった。

「まえがき」で、深沢健三前支部長は次のように述べておられる。「平成九年、『山梨百名山』が山梨県によって選定された。以来、県内外から多くの登山者が百の頂を目指した。今回、日本山岳会山梨支部がプラス百を選び、『甲斐百山』を公表したのは、より多様な山梨の山の魅力を伝えたかったからである。ここにも『百の頂に百の喜びあり』に違いない」。この言葉通り、本書を手にした登山者は山梨の多様な山に登り、多くの喜びを味

わったことだろう。

筆者は、事業の中途から編集の任に就いた。この時、選定された山のうち未踏の山が半数を上回ることを知って唖然とした。一念発起、編集作業と並行して未踏の山巡りを続けた。山梨市の棚山で、地元の人たちに手厚く守られている山ノ神石祠に出合って畏敬の念を抱いた。西山温泉への湯道が通じていた富士川町の八町山では、湯治客が往来したかつての賑わいに耳を傾けた。都留市の倉見山では、視界いっぱいに広がる富士山の肉薄に圧倒された。

翌令和2年に第2・3刷を発行したが、増刷分は程なく完売となったのち2年半が経過。この間、入手を希望する問い合わせが多く、理事会での検討を経て、令和4年12月に第4刷500部を発行した。再版にあたり、内容の不備や現地の状況等を訂正した。第3刷以降、台風や集中豪雨が山の様相を一変させている現場が少なくない。暗たんたる思いに駆られる。今後も気候変動に伴って山が深い傷を負い、ルートの変更等を余儀なくされることが予想される。読者には、事前にインターネットや地元市町村などからの情報収集を十分に行うよう、「あとがき」で呼びかけた。安全で喜びに満ちた甲斐百山巡りが実践されることを願う。

昨春鬼籍に入られた遠藤靖彦元支部長は、『甲斐百山』の作成に心血を注がれた。2万5千図に記載されているか、記載はないものの地元で呼称が定着している山を544座拾い上げて地図を作成。山梨百名山と甲斐百山を色分けして表記している。大変な労作であり貴重な資料であるのは一目瞭然である。また編集作業の過程で、独自に作った全山の難易度評価一覧や地質一覧を送っていただいた時も驚いた。これらは、客観的な検討に時間がかかるため一部の採用にとどまったが、その情熱・信念に圧倒される思いだった。遠藤元支部長に、第4刷の発行を謹んで報告したい。

増刷版は、県内書店やアウトドアショップ・エルクなどで販売中（税別1，600円）。支部員には割引頒価（1，500円）で販売している。完売に向けて、支部員各位にご協力いただきたい。問い合わせは古屋事務局長まで。

追悼

遠藤さんの思い出

小宮山　稔

遠藤　靖彦さん　2022（令和4）年4月17日死去。会員番号6653。

元山梨支部長遠藤靖彦さんは、2022年4月入院先の山梨県立中央病院で薬石効なく79歳をもって逝去されました。21年の2月、咳や声のかすれなど体調に異変を感じ病院を受診した結果、食道がんと診断され余命9カ月と告げられたそうです。酒たばこを断ち治療に専念していましたが、4月17日、帰らぬ人となりました。遠藤さん逝去の知らせを受け、支部運営に多大の功績を残した遠藤さんの訃報に支部員一同深い悲しみに包まれました。

遠藤さんは、南嶺会の会員で登山やスキーをされていたお父様の武夫様の影響で、小学生の頃から山に親しみ、甲府一高、横浜国大でも山岳部で活躍されました。1966年お父様がお亡くなりになり、大学卒業後は家業の宝飾業を継ぐこととなりました。学業から事業へと、慣れない仕事で大変苦労なされたようですが、遠藤さんの人柄もあり多くの方に助けられたとのことでした。

多忙な仕事の合間を縫い、一高山岳部OB会の鶴城山岳会でも活躍され、後輩の高校生の指導にもあたられました。1969年今井寛、三井松男支部長の紹介で日本山岳会に入会されました。1973年から1989年頃にかけ支部活動が停滞し組織の体をなしていない時期がありました。その立直しに遠藤さんに白羽の矢が立ち、事務局として岩間弘雄、坂本桂両先輩と共に支部再建に取り組まれました。その成果が、1993年の瑞牆山での全国支部大会の成功に結び付いたことは誰もが認めるところです。当時は、支部員でもない私にも遠藤さんから「お前も手伝ってよ」とのお声がかかりました。

私と遠藤さんとの出会いは、私が大学を卒業し甲府に戻り南嶺会に入会した頃になります。当時の山岳連盟は山岳会の垣根を越えて活動することも多く、私は一高山岳部の出身ではありませんが卒業生と云うことで、「5月に後立の赤沢西稜に行かない？」と誘われました。それが遠藤さんとの最初の山行かと思います。

赤沢岳は猫の耳で知られる双耳峰の山で、大学の冬合

宿で通ってはいますが西面から登るのは初めてでした。残雪の残る黒四ダムから急峻な尾根に取り付き、沢を揺るがす底雪崩の轟音以上に驚かされたのは、夜の静寂を切り裂く遠藤さんの鼾でした。しかし、テント生活での遠藤さんとの会話はとても面白く、厳しい登行ではありましたが楽しい山行でした。猫の耳に着いた時には「次は隣のスバリの西壁を登りましょう」などと会話し、翌年5月にはスバリの西稜を登ることになりました。

私が日本山岳会入会後もあちこちの山に誘われました。なかでも「この沢が面白そうだよ」と誘われたのが赤薙沢支流のミツクチ沢でした。この沢は、急峻なゴルジュの中に登攀困難な滝が連続する沢で、チョックストーンを抱える滝では、支点に打ったボルトのリングが伸びきるほどの転落をした私を、確保し止めてくれたのが遠藤さんでした。本当に命拾いをした苦い思い出です。

２０００年、遠藤さんから事務局を引き継ぎ支部の運営に携わるようになりましたが、様々な場面で遠藤さんにサポートをしていただきました。

２０１１年、遠藤さんは支部長に就任されました。以前から山梨には「山梨１００名山」以外にも素晴らしい山々があり、支部創立65周年事業に山梨２００山として紹介したいとの思いから、そのたたき台となる山々について奥様との山行を含め、各種資料や文献から２００をこえる山々の資料を独自に作成し、支部全体の事業として対象の山々の選定・踏査に取り組まれました。当初の発刊予定からは多少時間を要しましたが、２０１９年支部創立70周年記念誌「甲斐百山」して発刊することになり、遠藤さんも大変喜んでおられました。

入退院を繰り返した遠藤さんでしたが、看護師さんに「退院したら何をしたいですか」と聞かれ「良い奥さんにも恵まれ、やりたいことはすべてやったので特にない」と答えられたそうです。昨年の鶴城山岳会の会報に遠藤さんの記録があり、その中で、

「結果としてこれが我が人生最後の登山ということになりそうです。楽しく締めくくれた65年間の山通いでした。大鼾と我儘にお付き合い下さった全ての方々に心から感謝します。（中略）無理せず、怪我せず、妥協はその都度適当に数十年過ごしてきました。良い人生だったと、再度皆様に感謝いたします。２０２１年11月30日

遠藤靖彦

本日はナント結婚50周年、金婚式です。女房どの『有難う』」

と締めくくられていました。

新会員紹介

山への期待

服部　俊樹

昨年「やまなし登山基礎講座」を受講したことがきっかけで入会しました。山に登り始めたのは3年前と、つい最近です。コロナ感染が拡大して旅行も思うように行けない中、ふと思い立って登った早春の丹沢大山の山頂から見た富士山に惹かれました。今では山に囲まれた甲府で、大きな富士を眺め山行に想いを馳せる日々を送っています。

自然と自分に挑戦し、見たことない景観や自然に触れて、身体と心が動かされ大きな充実感を得られることが私にとっての登山の魅力です。重い荷物を背負い汗だくになりながら歩くと不思議と心が整ってくるように思います。

多くの人に出会うことができるのも魅力です。これから経験豊かな先輩方とご一緒させていただけることを楽しみにしています。また山小屋や登山道などの登山環境を充実させる多くの取り組みと努力に対して敬意を感じていますので、登山の文化を支えるため、微力ですが登山道整備や自然保護活動にも貢献したいと思います。

日本山岳会での活動を通じ、新たな経験を積んでいきたいと思いますのでご指導いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

山への意欲

手崎喜美子

私が山登りを始めたのは30歳過ぎてから、ＴＶ番組の影響であった。

20代は子育て中心の日々で、家族で楽しめる事、年老いてもできる趣味が欲しいと漠然と思いながら過ごしていた。最初は遠足気分でお弁当を持って、大菩薩峠、三ツ峠、日向山へ。それだけでは満足できず、徐々に一人で山を歩くのを楽しむ様になっていった。ただネット情報の独学だったため、このままで良いのか疑問があった。

「やまなし登山基礎講座」を受講し、翌年雪山講習に声を掛けて頂き、雪原の美しさや雪山の厳しさを知り、もっと技術を覚えたいと思うようになっていった。

アイスクライミングに出会ったのは2年前。富士見パノラマリゾートで講習を受け、ガイドの方に舟山十字路から広河原左俣～大滝に連れて行っていただいたのが始まり。クライミングは一人ではできない。ロープワークを教えていただけると知り、昨年準会員となった。

春は山菜採りや里山ハイク、夏から秋は高山植物堪能やきのこ狩り、車中泊での遠征、冬は雪山への挑戦。一年中山と関わっていきたい。

山と私と

石澤　貴子

「ママ遅ーい」。元気の良い大声を、何回聞いただろう。若い体力とあふれる好奇心で、まだ見ぬアルプスの山頂をキラキラした目で追っている。大パノラマを目の当たりにしても「やばい、すごーい」としか言わないが、態度を見ていると一緒に登って良かったなと思える。

娘と一緒の山登りは、楽しいけれど私に責任がのしかかる。体力はあるが知識と経験不足。それを補うことにかなりの神経を使う。かく言う私も、数年前に登山基礎講座を受講して、講師の方々に座学、実践登山技術を教えていただいた身だ。最近やっと自分以外の誰かのことを気遣うという余裕がでてきた。私が両親と登った思い出の山へ娘と登り、三世代で同じ山の話ができるということは、とても幸せだと思った。

私はこれから「やばい、すごーい」の伝承を増やしていけたら良いなと思っている。彼女は最近、テント泊について話を始めた。今年はアルプスのテント泊という提案を出されそうだ。テント泊の注意点を教えるのは大変だと思いつつも、私は楽しみに夏を待っている。

山に登りたい

鶴田　陽子

何も分からず、山に登っていました。山に登るのなら山のことを知りたいと思っていました。そんな時、娘が「やまなし登山基礎講座」のチラシを見つけ受講しました。

山は危険と隣り合わせの、容赦ない厳しい自然である

こと、そのため登山には十分な準備が大切であることを聞き身の引き締まる思いがしました。何度となく山へ登り、また幾度となく支部の山行に誘っていただきました。山っていいなと思いました。誘って頂き感謝しています。そして、もっと山に登りたいと思い、日本山岳会山梨支部に入会しました。

登山コースが違えば見える景色も違う、冬に登った真っ白でキラキラした山頂が春にはお花でいっぱいになるという話も聞きました。まだまだ知らない素敵な景色、素敵なお花畑など山の魅力を発見して行きたいです。これからゆっくりと登山を楽しんで行きたいと思います。宜しくお願いします。

長く楽しめる登山を

岩間　明子

私が登山を始めたのは、子育てがなんとなく一段落したかなと思った時に、このまま何もしないで年をとってしまうのはもったいない、これから長く楽しめる趣味はないかと考えたのがきっかけでした。山の空気も、自然の中に身を置くことも大好きだったので、ママ友に「山登りしてみない？」と、声をかけ、それからは年に数回、初心者でも安全に登れる山を検索しては出かけていました。

そんな時、新聞で日本山岳会の登山基礎講座の記事を目にし、登山について学んでみたいと講座を受講しました。最初は私が想像していた内容よりもレベルが高すぎて、場違いなところに来てしまったかなと思いましたが、皆さんがとても親切で丁寧に山の事を教えて下さるので自分自身もレベルアップできるのではないかと思い、今回準会員として登録させていただきました。

無理せず、自分の体力に合った登山をこれからも楽しみたいと思っています。

山の楽しみ

荻野　重行

２０２２年の「やまなし登山基礎講座」を受講し、準会員として入会しました。

小学生の時に家族と富士山に登りましたが、その後就職するまでは登山はしていませんでした。

山梨で生まれ山梨で育ちましたので山は常に近くにあ

り、昆虫採集や山菜・キノコ狩り、キャンプなどで訪れる場所として、山と川を楽しんでいました。就職後、仕事の1つとして山梨百名山の選定に伴う登山道の整備や山名柱の設置などを行い、登山の楽しさに気付き富士山、八ヶ岳、瑞牆山など主に日帰り登山を行ってきました。

身近な山の四季折々の変化を楽しむ登山ですが、毎回違う空の色、雲の形、草木の花や葉の色や形は不思議な魅力を持ち、心の奥深くに記憶として残っています。現在は、週末の日帰り登山が中心ですが、山岳会の諸先輩方の指導をいただきながら、新しい仲間と新しい山との出会いを楽しみにしています。

これからも、無理をしない登山を心掛け、周りの人に迷惑をかけないように登山を楽しみたいと思いますので、よろしくお願いします。

山との出会い

日向　直子

２０１９年の秋、山梨支部主催の「やまなし登山基礎講座」を受講したのが入会の大きなきっかけでした。実践登山で登った硫黄岳でのアーベンロートは、初めて見た私にとっては感動のそのものであり、山にすっかり魅了されました。そしてもっといろいろな山に登りたいと素直に思いました。

登山は、どんな年齢の人でもそれぞれに楽しむことができ、価値を与えてくれるもので、一生涯の楽しみになり得ると思います。憧れの北アルプスの山々、満点の星空を見上げる山々など行きたい所はたくさんあります。諸先輩方々に教えていただきながら、私の山歴は始まっていくだろうと思います。どうか今後ともよろしくお願いします。

日本山岳会に入会して

鈴木　大介

初めて山に登ったのは、２０１８年4月17日の山梨百名山・源次郎岳でした。私の場合は最初のうちは年4回くらいしか登りませんでしたが、最近では多少、登山する回数も増えてきて、山の好きレベルがちょっとずつ上がってきました。最近印象に残っている山は、北岳と金峰山です。

この度、日本山岳会に入会させていただきありがとうございました。初めて参加させていただいた新年会では、先輩方の山に対する熱い思いや、山に対する取り組みや、考え方など聞くことができとても感動しました。また、皆さんお酒が強いのもビックリしました。その時、この先輩方からもっともっと、山についてのことや人生について、いろいろ教えてもらいたいと思いました。

素晴らしい経験を持っていらっしゃる先輩方ばかりで、日本山岳会主催の山行に参加して技術を教えていただいたり、お話を聞かせていただいたりするのがとても楽しみです。不束者ですが、これからもよろしくお願いいたします。

登山の始まり

飯島　典子

登山のきっかけは友人の一言でした。私は山梨に生まれながら、日本一高く美しい富士山に登ったことがありませんでした。子供の頃に地元の里山を登った経験があるだけで、富士山はいつも見上げる対象でした。

私には、毎年富士山に登る友人がいます。登頂の度に楽しそうに山の話をしてくれます。山の魅力は何？と尋ねると、決まって返ってくる言葉が「登ってみたらわかるよ」でした。登らない人には理解できない、そう言われているように感じました。「なら登ってみよう！」「私も富士山に登ってみたい」。それが私の登山の始まりです。初めて登った富士山の満天の星空と、夜明けの美しさは今も忘れられません。

何の知識もなく始めてしまったことを反省し、山のことを学びたいと考えた時に見つけたのが登山基礎講座でした。お陰様で沢山のことを学び、安全に楽しく登ることができています。多くの人との出逢いもあり、縁あって入会をさせていただきました。少しずつスキルアップしながら、新たな山に挑戦できればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

事務局報告

小嶋　数文

令和４年度（２０２２年度）

●理事会・総会など（議題ほか）

令和４年（２０２２年）

４月16日　理事会（定時総会議案、新理事候補選出、支部山行関係、６月10日（金）山梨支部懇親会開催）

４月16日　定時総会（令和３年度事業報告・決算、令和４年度事業計画・予算、支部規約・弔意規程の改定、役員改選）

５月11日　理事会（各理事の分掌、第８回やまなし登山基礎講座案、親子・家族登山の山梨岳連との共催案の承認）

６月８日　理事会（前期支部山行・会員山行・田部祭の報告と計画、中期山行の詳細案日程、家族登山のチラシ、支援員の確認、県「山の日」イベント関連事業申請、第８回やまなし登山基礎講座チラシ最終校正）

７月13日　理事会（第３回家族登山、支部山行・会員山行・個人山行のあり方）

８月２日　理事会（第８回やまなし登山基礎講座、「引き継がれる山岳祭」プロジェクト）

８月29日　臨時理事会（登山基礎講座準備 プログラムの変更、参加者確認等）

９月14日　理事会（『甲斐百山』の第４版校正・増刷、木暮祭の内容・案内）

10月12日　理事会（登山基礎講座アンケート結果と総括、木暮祭・横尾山記念登山）

11月９日　理事会（後期（12～３月）支部山行・会員山行計画、『甲斐百山』発行）

12月14日　理事会（支部山行・会員山行、個人山行について、『甲斐百山』４刷５００部の発行・販売・支払い・ＰＲ、２０２３年１月26日新年会の予定）

令和５年（２０２３年）

１月12日　理事会（２０２３年度事業計画・予算案決定、支部山行・会員山行、個人山行について、『甲斐山岳』14号の作成要領について）

１月16日　山行委員会（令和５年度山行委員会山行計画、山梨支部（支部員）登山計画書（登山届）提出フローチャートの説明、エントリーシートの再提出）

２月８日　理事会（令和５年度山行委員会山行計画、２０２３第９回やまなし登山基礎講座、４月定時総会・日程等の決定、山岳レインジャーの登録）

３月８日　理事会（４月定時総会議案、第９回やまなし登山基礎講座日程・内容決定、令和４年度事業報告・決算案承認）

●支部行事など

※支部山行：公募登山、会員山行：支部員対象登山、家族登山：家族対象公募登山

令和４年（２０２２年）

４月９日　会員山行（雨ヶ岳・身延町）　６名参加

４月17日　支部山行（茅ヶ岳・北杜市／甲斐市）９名（支部員８名）参加

４月17日　第41回深田祭（韮崎市・深田記念公園）

４月23・24日　支部山行（富士山残雪期雪上訓練・富士吉田市）８名（支部員８名）参加

５月10日　会員山行（能岳・上野原市）３名参加

５月22日　第５回田部祭（山梨市・西沢渓谷　田部重治文学碑）

５月22日　支部山行（西沢渓谷・山梨市）10名（本部役員１名、支部員９名）参加

６月４日　支部山行（湯村山ロープワークとハイキングレスキュー技術の講習・甲府市）10名（支部員10名）参加

７月２日　支部山行（四尾連湖～蛾ケ岳～大平山・市川三郷町）６名（支部員４名）参加

７月９・10日　会員山行（北アルプス唐松岳、五竜岳・長野県）６名参加

８月11日　第３回家族登山（富士山北麓ハイキング・富士河口湖町）19名（支部員５名）参加

９月４～６日　会員山行（北アルプス穂高連峰 北穂高岳・長野県）悪天候予想にて中止

10月16日　支部山行（横尾山・北杜市　第63回木暮祭記念山行）18名（本部役員２名、支部員８名、受講生３名）参加

10月16日　第63回木暮祭（北杜市須玉町金山平・木暮理太郎記念碑）

10月29日　支部山行（五宗山 熊森山経由・身延町）４名（支部員３名）参加

11月3日　支部山行（苗敷山 旭山・韮崎市）3名（支部員2名）参加
11月27日　支部山行（丹沢・大倉尾根から蛭が岳・神奈川県）8名（支部員8名）参加
12月17・18日　支部山行（富士山5、6、7合目 雪山登山技術の習得と雪上訓練）訓練予定場所状況不適にて延期

令和5年（2023年）
1月9日　支部山行（焼津アルプス・静岡県）7名（支部員6名）参加
2月1日　会員山行（霧ヶ峰 鷲ヶ峰往復と八島湿原・長野県）積雪なく状況不適にて中止
2月5日　支部山行　雪山ステップアップ講習①（北横岳・長野県）8名（支部員6名）参加
2月26日　支部山行　雪山ステップアップ講習②（縞枯山から麦草峠・長野県）9名（支部員4名）参加
3月11・12日　支部山行（富士山5、6、7合目 雪山登山技術の習得と雪上訓練・富士吉田市）8名（支部員7名）参加
3月18・19日　支部山行 雪山入門ステップアップ講習③（根石山荘泊 東天狗岳 硫黄岳・長野県）
3月25日　支部山行（大栃山～花鳥山 一本杉・笛吹市）

●第8回やまなし登山基礎講座2022（講座全5回、実践登山全3回）受講生14名
第1回　9月8日（木）オリエンテーション、日本山岳会について、山の天気と観天望気
第2回　9月15日（木）安全安心登山の基本、装備・服装・食糧
第3回　9月22日（木）地図読み、山の自然保護
第4回　9月29日（木）山岳遭難、山の救急医療
第5回　10月6日（木）山の文学、山梨の登山史、山岳写真、修了式
実践登山②　10月1日（土）高川山・都留市／大月市17名（受講生11名、スタッフ6名）参加
実践登山①補講1　10月30日（日）茅ヶ岳・北杜市／甲斐市 12名（受講生7名、スタッフ5名）参加
実践登山①補講2　11月13日（日）茅ヶ岳・北杜市／甲斐市 10名（受講生6名、スタッフ4名）参加

●山岳古道調査委員会活動（金峰山古道調査班／南アルプス北部古道調査班）
令和4年（2022年）
（1）金峰山古道調査班
実地調査なし
（2）南アルプス北部古道調査班
実地調査なし
なお、調査古道に富士山吉田口登山道、早川町新倉～伝付峠～二軒小屋の2ルートが追加された。

●山梨県山岳レインジャー活動
令和4年（2022年）
5月2日　三ツ峠（日帰り・探索調査）、北原孝浩ほか4名
6月20―21日　鳳凰三山（1泊2日・定経路調査）、古屋寿隆ほか2名
7月1日　瑞牆山荘～富士見平小屋（日帰り・探索調査）、北原孝浩ほか 3名
8月24―25日　北岳（1泊2日・定経路調査）古屋寿隆ほか2名

●機関誌発行（『甲斐山岳』「支部通信」『甲斐百山』）
令和4年（2022年）
6月30日　支部通信第3期第12号
12月8日　『甲斐百山』4刷増刷500部
12月20日　支部通信第3期第13号
令和5年（2023年）
3月31日　『甲斐山岳』第14号

●令和4年度（2022年度）会員異動
入会（会員）
令和4年11月　会員番号　17000　服部　俊樹
入会（準会員）
令和4年4月　会員番号　A0438　手崎喜美子
令和4年4月　会員番号　A0449　石澤　貴子
令和4年10月　会員番号　A0493　鶴田　陽子
令和4年11月　会員番号　A0505　岩間　明子
令和4年11月　会員番号　A0506　荻野　重行
令和4年12月　会員番号　A0514　日向　直子
令和4年12月　会員番号　A0515　鈴木　大介
令和5年1月　会員番号　A0516　飯島　典子
退会
令和4年4月　会員番号　6653　遠藤　靖彦（死亡）
令和5年3月　会員番号　14860　林　静雄

令和5年3月　会員番号　16553　勝倉　修一
令和5年3月　会員番号　A0297　河内　幸子

《日本山岳会山梨支部・支部員名簿》（令和5年・2023.3.31現在・77名　会員番号順 ＊印は永年会員）

会員番号	氏　名
2525	中尾　正武＊
4548	今澤　　寛＊
5350	浅川　瑞穂＊
5657	清水日出勇＊
5687	山寺　義雄＊
7299	許山　　隆
7517	山本　　稔
7728	久保田明宗
7730	内藤　順造
7831	堀口　丈夫
8064	望月阿香実
8145	梅本　　実
8334	小林　啓助
9089	荻原　賢司
9336	羽田　政人
9634	滑志田　隆
10920	深沢　健三
11028	薬袋　興児
11326	斎藤　英子
11350	足立　英二
11352	小宮山　稔
11408	斎藤　忠文
11518	所　　一路
11652	角田　　元
11823	秋山　　泉
12069	長沢　　洋
12111	中田　一郎
12213	鈴木　勝彦
12396	遠山　若枝
12561	古屋　寿隆
12569	磯野　澄也
12913	青木　　茂
13443	中村　光吉
13669	矢崎　茂男
13816	鈴木　伸介
14065	北原　孝浩
14263	平松久美夫
14440	露木　弘光
14653	萩野有基子
14785	小杉　秀夫
14821	大澤　純二
14827	野口　健介
14860	林　　静雄
15517	堀内　久光
15569	渡辺　峯雄
15577	川手　一正
15720	小宮山千彰
15833	末木佐登子
15958	大澤さな枝
16140	長坂　公貴
16210	池田新二郎
16268	臼田　昌美
16290	荏原由美子
16499	窪田　光一
16553	勝倉　修一
16691	小嶋　数文
16693	河野　芳尚
16730	中川惠美子
16760	川島万里子
16786	平松　清子
16815	高本　英明
17000	服部　俊樹

以上　正会員62名

会員番号	氏　名
A0243	上田　謙治
A0251	高橋みゆき
A0259	黒沼　英美
A0297	河内　幸子
A0332	相川　　修
A0404	井田　智子
A0405	小川　基子
A0438	手崎喜美子
A0449	石澤　貴子
A0493	鶴田　陽子
A0505	岩間　明子
A0506	荻野　重行
A0514	日向　直子
A0515	鈴木　大介
A0516	飯島　典子

以上　準会員15名

あとがき

新型コロナウイルスとの共生が進み、社会の動きが正常化しつつある。登山界も本支部も、止まっていた時計の針が回り始めた。今年度は、やまなし登山基礎講座を始め、事業のほぼ全てを通常の形で再開することができた。したがって本機関誌もコロナ禍以前の内容に戻し、山行報告を中心に編集した。安堵の一方で、誌面構成がマンネリ化し魅力を失ってはいないかとの危惧がある。支部員各位の意欲的・積極的な寄稿を、再度お願いする次第である。

世界に目を向ければ、理不尽な侵略戦争が勃発したり、主要国間の軋轢が高まったりして国際秩序が大きく揺らいでいる。また、トルコ・シリアの大地震による惨状は限りなく痛ましい。登山を楽しむには社会情勢が安定していることが前提である。だから、どんなに小さな山登りであっても、登れること自体が有難いと思いたい。

今号では、新会員9人から入会挨拶文を寄せていただいた他、多くの支部員、支部外の方から原稿をいただいた。記してお礼申し上げる。

編集担当　矢﨑　茂男
題字　高室陽二郎
表紙　遠山　若枝

甲斐山岳　第十四号

令和五年三月三十一日発行

発　行　公益社団法人日本山岳会山梨支部
発行者　北原　孝浩
編　集　矢﨑　茂男

支部事務局住所
〒四〇〇―〇一一八
甲斐市竜王三〇二二―一　古屋寿隆方